

放射性廃棄物 地域ワークショップ 名古屋 (2007.12.1)

2007年12月1日(土)に標記の開催案内が、なんと! 2007年11月27日の資源エネルギー庁のHPに載りました。案内掲載後4日で会合を行うなど、抜き打ち開催です。参加者は既に決まっています、黙ってやっとな言われないためのアライブづくり案内です。

実質主催者のNPOに問い合わせた方から、当日参加も可能との連絡をもらいました。ワークショップの第一回会場が名古屋で、どこが請け負いどんな人が集まり、どんな発言をするのか知りたくて、午前だけ参加しました。

主催

- ・資源エネルギー庁、(財)原環・資金管理センター(高レベル処分費用も管理)
- ・地域開催協力:NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット、オフィスアイリス
- ・元請け:オフィスアイリス、「元気ネット」が下請け。「元気ネット」の監事は原子力委員の松田美夜子氏。
- ・講演者:梶井成夫氏(元読売新聞論説委員) / 講義:資源エネルギー庁、原環・資金管理センター / 話題提供者:飯尾 歩氏(中日新聞社論説委員) 崎田裕子氏(元気ネット理事長)

参加者

- ・電力、NUMOが多く参加している感じ。
- ・公務員の男性や久しぶりという間柄の年配の男性も多かった(立場は不明)。
- ・若い人達は意外に原発に批判的だった。
- ・原発や原発のゴミのことを知らない人が多かった。
- ・松田原子力委員も参加。同委員が出演するごみ問題ビデオを昼休みの会場で上映。

進め方

最初から原発賛成、分からない、反対を等分にグループ分けし、講演や講義を聞いて質問を出し合い。

講演、講義

- ・温暖化防止には当分の間、原発が必要。
- ・核燃料サイクルで発生する高レベル放射性廃棄物は地層処分する。
- ・火山や活断層を避け、安定した地下深部を選んで多重バリアで処分する。
- ・地下は地震の揺れが小さい。
- ・原油が高騰しても電気料金が安定しているのは原発があるからだ。

こんな説明や講義が午前中続きました。

講演や講義を聞いて出てきた質問

- ・なぜ原発なのか。
 - ・日本企業のCO₂自主削減とEUの取組の違いは何か。
 - ・核燃料のリサイクルは何回も可能か
 - ・原発の費用計算に高レベル放射性廃棄物処分や採掘・製錬、ウラン残土の後始末まで含まれているのか。
 - ・間伐材等のバイオマスエネルギーを増やすべきではないか。
 - ・処分した高レベルは漏れないか。
 - ・モニタリングが必要ではないか。
 - ・地震国で地下処分して大丈夫か。
 - ・新エネルギー1%で良いのか。
 - ・瑞浪市に処分の研究所があることも知らされていない。
 - ・公募がなったらどうするのか。
 - ・国が前面に立った処分調査の申し入れをするとは本当か。
 - ・多くの国は直接処分なのに、なぜ再処理をするのか。
 - ・ドイツの脱原発はどうなっているか。
- 等々でした。

なぜ原発なのかという根本問題が各グループから出されました。

本来なら、原発をつくる前に、こうした話し合いを進めて国民に知らせ、理解が得られなければ原発を作らないという選択肢があるべきでした。

数人の批判的な人がいれば、問題を浮き彫りにできると思いました。

しかしこの内容で主催者が参加者を意図的に選んではまともなワークショップは成り立ちません。